



会長 中村 英隆

理事長 岡部 憲昭

皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

今年も、メチャくんファミリーが表紙を飾るディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2014』が完成しました。遠賀信用金庫の活動等についてのご理解を一層深めていただくために、出来る限り分かり易く作成しました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成25年度の我が国経済は、デフレからの脱却と経済再生をめざすアベノミクスの進展によりまして、大企業を中心に業況の改善が強まり、次第に景気の回復傾向が強まってまいりました。しかしながら、地域の経済は、少子高齢化、中小企業数の減少、円安に伴う原材料高の影響などから、いまだ景気回復の実感は乏しいと言わざるを得ません。今後、第3の矢である「民間投資を喚起する成長戦略」が着実に実行され、アベノミクス効果が地域経済に浸透し、地域の中小企業にも景気回復の動きが広がってくることを期待されます。

こうした中、遠賀信用金庫は、「お客様の役に立つ金融機関、お客様から選ばれる金融機関、地域のベスト金融機関」という経営の基本方針の下、地域に貢献し、地域とともに歩む町内会的金融機関として、様々な取組みを展開してまいりました。

昨年5月には、遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客様を会員とする「おんしん おむすび会」を発足させました。会員の皆さまに素敵な特典をご用意するとともに、地域の皆さまの「結び」を深める活動を展開しております。

また、昨年9月には、地域の明日を担う若手経営者を育成する「おんしん未来創世塾」を開講しました。これは、実践的な経営知識の習得とともに、地域の若手経営者同士のネットワーク作りをめざすものであり、塾生の皆さまからご好評を得ております。

さらに、昨年11月から3か月間、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」のユネスコ世界遺産への登録を応援する定期預金を発売し、集まった預金の一定割合を世界遺産推進会議に寄付をしました。

平成25年度の決算につきましては、厳しい経済環境下ではございましたが、当期純利益は、前年度を大きく上回る602百万円を確保することができました。ご預金に対するご融資残高の割合である預貸率は、62.41%で、引き続き業界平均を大きく上回りました。金融機関の健全性を示す自己資本比率は14.50%と、国が定める基準(4%)の3倍を超えております。以上を踏まえまして、会員の皆さまへの出資配当は、本年度も業界の最高水準である8%を維持することができました。

遠賀信用金庫は、「スモール イズ ナイス」の合言葉に込められた協同組織金融機関としての矜持を胸に、小さいからこそ可能な「お客様のニーズのきめ細かな把握」「素早い決定」「素早い対応」「手作りの心のこもったサービス」を実践し、これまで以上に地域に貢献し、皆さまのご期待に応えるべく、役職員一同、渾身の努力をする所存であります。

今後とも、遠賀信用金庫に対し、格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆さまのご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

平成26年7月